

第18回日本・シンガポール・シンポジウム 生稲政務官基調講演

ただいま御紹介にあずかりました外務大臣政務官の生稲晃子です。本日ここに第18回日本・シンガポール・シンポジウムを開催できることを大変喜ばしく思います。日本政府を代表し、日本国際問題研究所、シンガポール国際問題研究所をはじめ、本シンポジウムの開催にご尽力いただいた日・シンガポール両国の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。長い歴史を持つ本シンポジウムにおいて基調講演を行う機会をいただいたことを大変光栄に思います。

本日は、現在の国際情勢も踏まえつつ、現在の日本とシンガポールの二国間関係、両国の地域における役割そして、今後の展望についてお話をしたいと思います。

1 今日の国際情勢

国際社会は、分断と対立が深刻化し、安全保障環境が厳しさを増しています。中東情勢、ロシアによるウクライナ侵略をはじめ、国際社会は大きく揺れ動いています。アジアにおいても、北朝鮮による核・ミサイル開発、東シナ海及び南シナ海における力又は威圧による一方的な現状変更の試みをはじめ、安全保障環境は厳しさと複雑さを増しています。

国際貿易をめぐる緊張が急速に高まり、世界経済や多角的自由貿易体制に大きな影響を及ぼしています。

このような国際情勢に直面する中、日本とシンガポールは地域と国際社会の平和と繁栄にどのような役割を果たすことが期待されているのか、そのような視点に基づいて両国関係を考えることが益々重要になってきていると考えます。

2 二国間関係

我が国とシンガポールの関係は、来年外交関係樹立60周年の節目を迎えます。両国はこれまで様々な分野で友好・協力関係を深めてきました。

経済分野においては、我が国とシンガポールは自由で公正な経済秩序を維持すべく、ルールメイキングのフロントランナーとして協力しています。2002年には、我が国にとって初となる経済連携協定をシンガポールと締結しました。また、多国間においては、2018年にCPTPPの発効を実現した他、2019年に開始したWTO電子商取引交渉の共同議長国として取り組んでいます。近年、ルールに基づく国際貿易を取り巻く状況が不透明になる中、両国の協力の重要性が一層高まっています。

また、シンガポールはインド洋と太平洋をつなぐシーレーンの要衝に位置しており、両国は海上保安機関間の連携・協力を長年続けています。本年7月には、海上保安庁練習船「いつくしま」がシンガポールに寄港し、海上保安機関職員等との交流を図ることができたと承知しています。

安全保障・防衛分野も、特に近年協力が進展しています。日・シンガポール2国間による親善訓練のほか、様々な多国間共同訓練に両国で参加し連携を深めています。また、2023年には、防衛装備品・技術移転協定が発効しました。今後こうした関係を基礎に具体的な協力が一層進むことを期待します。

人的交流・知的交流も長い歴史があります。両国が協力して第三国への技術協力を実施する「21世紀のための日本・シンガポール・パートナーシップ・プログラム」では、1997年の開始からこれまでの間に、海上安全、サプライチェーン強靱化、都市開発といった様々な分野で、ASEAN諸国をはじめ約100か国から7000名を超える研修員を受け入れてきました。

対日理解促進交流プログラムJENESYS（ジェネシス）による若者の交流も盛んです。私も、1月に「日本・ASEAN学生会議」に参加するASEAN加盟10か国及び東ティモールの大学生と面会し、将来、各参加者が日本とASEAN各国との架け橋として活躍することへの期待をお伝えしたところです。

3 地域における役割、今後の展望

このように、日本とシンガポールは良好な協力関係を続けていますが、現下の国際情勢において、これまでの二国間協力を土台に、両国関係を更に発展・強化していくことが強く期待されています。

こうした問題意識の下、本年に入ってから、日シンガポール政府間では、活発な往来・意思疎通を行っています。4月には、日シンガポール首脳電話会談を行った他、5月に、ガン副首相兼貿易産業大臣が来日された際には、林官房長官と会談を行いました。また、7月にはASEAN関連外相会議の場で、岩屋大臣とバラクリシュナン外相との間で突っ込んだ議論が行われました。また、先月末にも、リー・シェンロン

上級大臣が大阪・万博ナショナルデーに御出席のため訪日され、石破総理と会談しました。

7月の外相会談では、2026年の外交関係樹立60周年に向けて、デジタル、グリーン、安全保障といった幅広い分野において協力を推進していくことを確認する等、二国間関係は着実に進展しています。

また、各地から知見の集まるシンガポールは、ASEANのオピニオンリーダーでもあります。そうしたシンガポールとの間で、進むべきビジョンを共有し、地域、さらには国際社会全体が直面する、共通の課題の解決に向けて、日シンガポールが共に歩んでいくことが重要であると考えています。そのような観点から、気候変動の分野においては、アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC（エーゼック））の下、アジア地域の脱炭素化に向けシンガポールとも積極的に連携しています。

このように、両国は地域及び国際社会が直面するさまざまな課題に対して、共に取り組む重要なパートナーです。二国間での個別の取組を着実に実施、強化しつつ、この地域の平和と繁栄のための協力・連携を更に強化・進展させていくため、私自身も力を尽くしたいと考えております。

本日のシンポジウムにおける議論が、日・シンガポール両国の将来を見据えた一つの示唆を与えてくれることを願いつつ、私の基調講演を締めくくらせていただきます。

ありがとうございました。

（了）